

開催協議会名	令和7年第3回 大田警察署協議会		
開催日時	令和7年10月7日（火）午後2時から午後4時30分まで		
出席者	協議会委員	5人 多田会長、浅野副会長、須藤委員、田中委員、福田委員	
	公安委員	柿本公安委員	
	警察署	10人 （署長、副署長、会計課長、生活安全課長、地域課長、刑事課長、交通課長、警備課長、温泉津広域交番所長、総務係員）	
会議・協議	署長からの 諮問	諮問事項	効果的な警察広報について
		説明概要	<p>1 現状と課題</p> <p>多額の特殊詐欺被害や重大な交通事故が増加傾向にあり、抑止に向けた警察広報を様々な媒体を活用して実施しているのにもかかわらず被害が発生している。</p> <p>2 大田署での取組</p> <p>広報紙やデジタルサイネージ、高齢者に対する講話、ケーブルテレビによる放送などによる注意喚起を実施している。</p> <p>3 諮問事項</p> <p>より多くの市民が理解し、実践してもらえるような効果的な警察広報についてご意見を伺いたい。</p>
		答申（意見等）	<p>【多田会長】</p> <p>広報紙は幅広い世代に読んでもらうことが重要である。読み手を意識して作成してほしい。</p> <p>【浅野副会長】</p> <p>若い世代はSNSの利用者が多いので、有効的な広報ツールとして利用すべきである。</p> <p>【福田委員】</p> <p>広報紙に掲載されている「信号機の閃光」、「匿名・流動型犯罪」、「還付金詐欺」などの用語は、市民にとって馴染みが薄く、内容の理解が難しい。誰にでも理解できるよう、専</p>

			門用語を避け、平易な表現で記載してほしい。 大田市消防が発信するSNS（インスタグラム）は楽しくて頻繁に視聴する。また、クマの出没など身近な話題には興味が引かれる。
報 告	報告事項	大田警察署からの説明	
	説明事項	1 令和7年度上半期の主な取組結果について（各課長が説明） 2 前回協議会の諮問（駐車場における交通事故防止）に関する対応結果について（交通課長が説明）	
	答申（意見等）	1 市民の安全安心のため、署員の方が日夜懸命に働いてもらっていることが分かった。 2 広報紙等で「市内で事故が多発」とするのではなく、「スーパーの駐車場で事故が多発している」と具体的に記載することで、市民の理解促進および交通安全意識の向上になるのではないか。	
視 察	1 110番映像通報システム（地域課長が説明） 2 島根県情報通信部の役割（島根県情報通信部職員が説明）		
委員からの感想	【多田会長】 110番映像通報システムは、現場の状況がリアルタイムで警察側に瞬時に伝わるのでとても優れたものだと思う。 【須藤委員】 映像が乱れたり、フリーズしたところがあったので、改善されるとより良くなると思う。 【福田委員】 情報通信部が普段どのような業務をしておられるのか知ることができて良かった。		
公安委員総括	○ 活発な意見交換がなされていた。 ○ 大田警察署では、職場環境の改善を図るため「やってみよう会」を設置し、職員が意見を自由に発言できる環境をつくることで、業務の「見える化」、組織の「言える化」が進み、日々の業務改善に反映されていることが分かった。今後も継続して行ってほしい。		

○ 大田市の安全・安心を確保するためには、地域住民一人ひとりが安全を自らの問題として捉え、警察は意識醸成に向けた活動を推進していくことが重要である。

写 真



【会長挨拶】



【公安委員挨拶】



【110番映像通報システムの説明】



【島根県情報通信部の説明】

